

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K00505

研究課題名（和文）フランス19世紀文学におけるヘテロトピア

研究課題名（英文）Heterotopia in 19th century French literature

研究代表者

博多 かおる（HAKATA, Kaoru）

上智大学・文学部・教授

研究者番号：60368446

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：ミシェル・フーコーが定義した「ヘテロトピア」の概念を参照しつつ分析することにより、バルザックやジョルジュ・サンドの作品をはじめ19世紀フランス小説における空間・時間の性質に新しい光を当てた。複数のヘテロトピアが連関することで小説の潜在的な主題が浮き彫りにされる。異なる空間と異なる時間が連携することで他の場所に視線が送られ、過去の様々な層が掘り起こされる。ヘテロトピアが周囲の空間とつながったりそこから切り離されたりする独特なシステムは、想像力や情報の流れ、語りの仕組みと結びついて小説を展開する。さらには、隣接する異なるものの関係性が問われることで小説に独特な詩情が生まれることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

さまざまな社会階層、都市とさまざまな地方を描こうとしたバルザックの小説にあって、それぞれの空間の内部で「異なる」部分と他の場の関係が、小説の根底的な主題を読み解かせたり、全体における異質なものの連関を示唆したりすることを示し、新しい視座を提供することができた。また19世紀の小説における、性質の異なる空間の境界性に注目することによって、小説的な詩情が生まれる契機、小説が想定する人間世界の空間構成について重要な仮説を立てることができた。ヘテロトピアはあらゆる社会にも存在し、誰もが体験しうるものである。本研究で展開した場と想像力についての考察は、現実社会の空間についても応用されうる。

研究成果の概要（英文）：The analysis, with reference to the concept of "heterotopia" as defined by Michel Foucault, sheds new light on the nature of space and time in the novels of Balzac, George Sand and other 19th century French authors. The linkage of multiple heterotopias highlights the potential themes of the novels. The linkage of different spaces and different times sends the gaze elsewhere and unearths different layers of the past. The unique system by which heterotopia is connected to and disconnected from the surrounding space develops the novel in connection with the imagination, the flow of information, and the narrative mechanism. Furthermore, it reveals that the questioning of the relationship between different adjacent objects creates a unique poetic sentiment in the novel.

研究分野：フランス文学

キーワード：ヘテロトピア 境界 異なる空間 詩情 19世紀フランス文学 バルザック ジョルジュ・サンド 隣接

## 1. 研究開始当初の背景

19世紀フランス文学作品における空間の断層や、社会性の異なる場の対立は、さまざまな視点からすでに考察されてきた。しかし、周辺と何かが異なる「ヘテロトピア」が空間の整合性に亀裂を入れたり、修辭的基盤を転換したりするさまを分析することで、これらの主題をさらに掘り下げ、同時に空間についての新たな考察を提案できると考えた。ヘテロトピアを作ったり消去したりする集団の特性を再考するとともに、ヘテロトピアがうながす記憶や感覚のもつれ、時空の読み替えなどを吟味し、その社会的・文学的射程を考察しようとした。

## 2. 研究の目的

19世紀フランス文学にあらわれる特徴的な空間を、ミシェル・フーコーが提案した「ヘテロトピア」の概念と照らし合わせて分析することにより、各社会集団が育んだ空間の独特な働きについての思考を読み解く。19世紀文学がそれらの空間の特性を、感覚、記憶の動きなどといかに関連づけたか、それが作品の文体、視点、空間構成、時間の層などにかなる影響を与えたかを明らかにする。

## 3. 研究の方法

まずはフーコーが提案したヘテロトピアの定義を再確認する。たとえばミハイル・バフチンが空間と時間の関係性について提唱したクロノトープの概念や、ガストン・バシュラールの想像力と空間に関する著作等を再検討する。ヘテロトピアと隣接する概念も再考し、考察の軸に組み入れる。

その上で、文学作品にあらわれるヘテロトピアを分析する。各作家において重要な例を取り上げると同時に、それらの比較を行う。ヘテロトピアとみなせるそれぞれの場が、19世紀フランス文学作品においていかなる役割を果たしているかを詳細に論じていく。

同時に、各空間が当時持っていた働きを、資料調査を行なった上で精密に把握する。たとえばフーコーの示唆にもとづき、それぞれのヘテロトピアの開閉のシステムにも着目する。人が強制的に入らされる場、常に開いているように見える場、認められた者しか入れない場などを区別し、その意味と効果を調査する。その上で、ヘテロトピアの分布やその消滅、誕生、変遷を記述する。各ヘテロトピアの役割の変化、それをヘテロトピアと認識する社会集団とそうでない集団の違いを考察する。またヘテロトピアが特に小説の中で語りや間テクスト性と関連して生み出す詩情を探る。

## 4. 研究成果

全体としては、ミシェル・フーコーが定義した「ヘテロトピア」の概念を参照しつつ分析することにより、19世紀フランス小説における空間のさまざまな細部に着目し、空間と時間の連関を再考するとともに、複数のヘテロトピアが連関することで小説の潜在的な主題が浮き彫りになる仕組みを論じることができたと考えた。

はじめに、ヘテロトピアとみなされうる場所の中でも特に庭と船を取り上げつつ、小説の中では語りと連関してヘテロトピアの空間的性質が発揮されていくことを明らかにした。異なった語りの次元に現れる庭が連関し、読者の記憶に作用する仕組みを論じていった。同時に、ミシェル・フーコーの指摘どおり、ヘテロトピアがヘテロクロニー（異時間性）と結びついていることも検証された。特にバルザックの小説においては、異なる空間の描写が断片的な歴史的な時間と私生活の情景を結びつける例が多く見られる。それぞれの社会階級の私生活の記憶が、貴族社会の終焉や小さいものを大きく見せるブルジョワ的からくりの発生など社会的な変化と連関しつつも複雑に絡み合っていることが、ヘテロトピアの分析を通して理解される。さらに本研究は、世界の富をのせた海賊船のヘテロトピア性を分析し、想像の上で船に乗り込むことが、そもそもヘテロトピアである船に精神を託し、白紙の時間に物語を投影することを論じた。

異なる空間と異なる時間が連携することで他の場所に視線が送られ、過去のさまざまな層が掘り起こされることも明らかにされた。ヘテロトピアが周囲の空間とつながったりそこから切り離されたりする独特なシステムは、想像力や情報の流れ、語りの仕組みと結びついて小説を展開することが理解された。

次に、そうしたヘテロトピアの中に、鏡や地図、異国の花といった「異なる」次元を持ち込み、生み出し、指し示す要素が存在する例について考察した。そのことで、小説の主題が反転されたり再構成されたりする場合を分析した。

ヘテロトピアを構成する蒐集の空間、コレクションの中にひそむ異なる時間についても考察を行った。そこに存在する失われた私生活への眼差し、失われたものを現在の私生活空間に掲げ

ることの意味を論じた。

一部の研究者がヘテロトピアとみなしている社交空間「サロン」で育まれた音楽ジャンル、「ロマンス」についても研究を行い、国際学会で発表を行うとともに研究論文にまとめた。他の社会空間とみずからを区別しつつ、ヘテロトピアの閉鎖性と、異なった要素を出合わせる機能を発揮しながら、その成員の手に届く芸術性を模索することで、サロンが独自の音楽ジャンルを展開していったことを論じた。また作家はその流行を作品に取り込むに際し、やはりサロンで育まれていった「セレブリティ」の概念をふまえ、証拠を蒐集するという仕草にも着目していることが理解された。

また、バルザックやジョルジュ・サンドにおけるヘテロトピアの閉鎖のシステムを作るものと無効にするものについて考察を行った。壁や扉などがなくとも、禁止や恐れによってヘテロトピアは他の場に対して閉じられる可能性がある。たとえば鳥のように人間社会の役割や感情から自由な存在が投入されることにより、閉鎖の呪縛が解かれる例もある。またフォーコーはヘテロトピアをしばしば通過儀礼の場になることを指摘していた。まさにそれを踏襲する小説の場面が多く存在するとともに、特にバルザックやゾラは閉鎖のシステムと結びつく権力や情念を強調することによって、通過儀礼の物語の紋切り型をくつがえしたことがわかる。

さらには、隣接する異なる空間の関係性が問われることで、小説に独特な詩情が生まれることを検証した。特に「隣接」が「併置」にとどまらず、比較しあったり境界線を共有しあったりしてその違いが透かし合わされる時、小説的な空間の詩情が生まれたり再現されたりすることを論じた。

本研究は、何らかの理由によって他と異なり、他の空間を反転し、反論したりすることもある「ヘテロトピア」について、19世紀フランスという変動の時代に描かれた文学作品の読解を通して考察するものだった。特に特徴的なヘテロトピアの例を掘り下げることによって、小説の仕組みや社会や時間についての考察をこれまでの研究にはなかった角度から捉えることができた。またそれらの場と場をつなぐさまざまな境界を考察することが、フォーコーの提唱した「ヘテロトピア」学を深める一つの道であることが理解された。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 博多 かおる	4. 巻 55
2. 論文標題 『人間喜劇』のヘテロトピア：庭と船をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 仏語仏文学研究	6. 最初と最後の頁 127～150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15083/0002003836	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kaoru Hakata	4. 巻 23
2. 論文標題 Balzac et Auber - collaboration autour des "romances"	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 L'Annee balzacienne	6. 最初と最後の頁 161-174
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 博多かおる	4. 巻 55・56
2. 論文標題 花を描くこと、造花づくりにおける隣接、詩情の浸透あるいはリサイクルージョルジュ・サンド『アントニア』を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 上智大学フランス文学科 仏語・仏文学論集	6. 最初と最後の頁 101-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 3件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 博多かおる
2. 発表標題 「Dictionnaire Balzac 音楽に関する項目をめぐって」
3. 学会等名 合同バルザック研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kaoru Hakata
2. 発表標題 Balzac et Auber-collaboration pour une romance imaginee
3. 学会等名 Balzac en collaboration (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 博多かおる
2. 発表標題 バルザックと音楽家の「共働」－『モデスト・ミニヨン』の楽譜と音楽ジャンル「ロマンス」を中心に
3. 学会等名 第112回関西バルザック研究会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 博多かおる
2. 発表標題 バルザックの作品におけるヘテロトピア
3. 学会等名 2019年度バルザック 合同研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------